

第1回舞鶴市上下水道事業審議会資料

経営戦略の策定について

上下水道部

経営戦略の策定について

1	理念	1
2	上下水道を取り巻く現状	
	(1) 収益見通し	3
	(2) 上水道の資金の将来見通し	4
	(3) 下水道の資金の将来見通し	5
	(4) 上水道の企業債残高の状況	6
	(5) 下水道の企業債残高の状況	7
3	理念達成のための具体的な取組	
	(1) 適切な資産管理	9
	(2) 適切な債務管理	15
	(3) 費用削減への取組	17
4	経営戦略の策定に向けて	
	基本方針と方向性	19

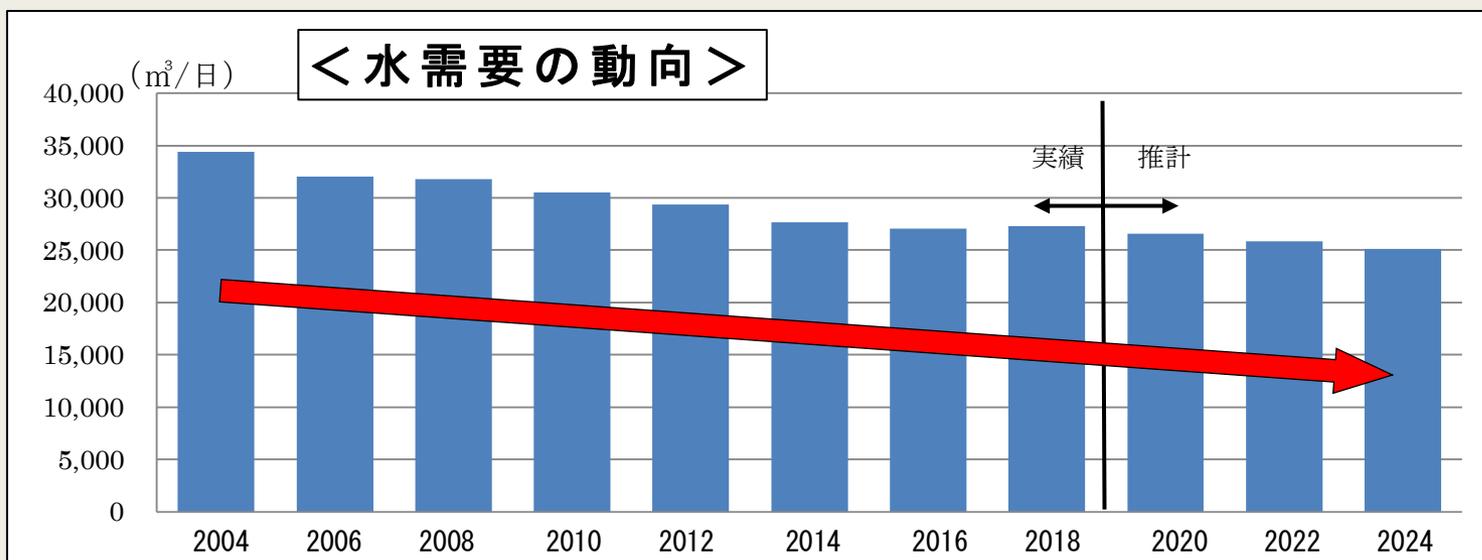
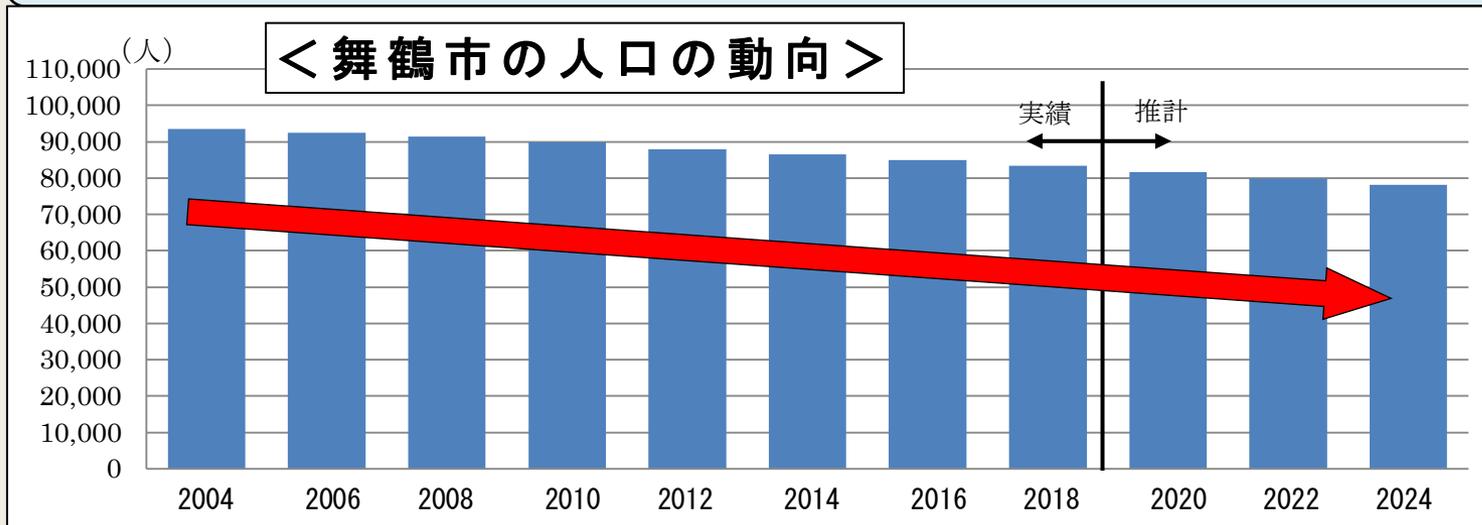
1 理念

「持続可能な健全経営を基本に
将来に渡って安定した
上下水道の提供」

2 上下水道を取り巻く現状

(1) 収益見通し

人口減少や節水機器の普及などにより、水道水の使用量は年々減少するなど水需要は低迷し、**給水収益及び下水道使用料は減収**となる見込です。



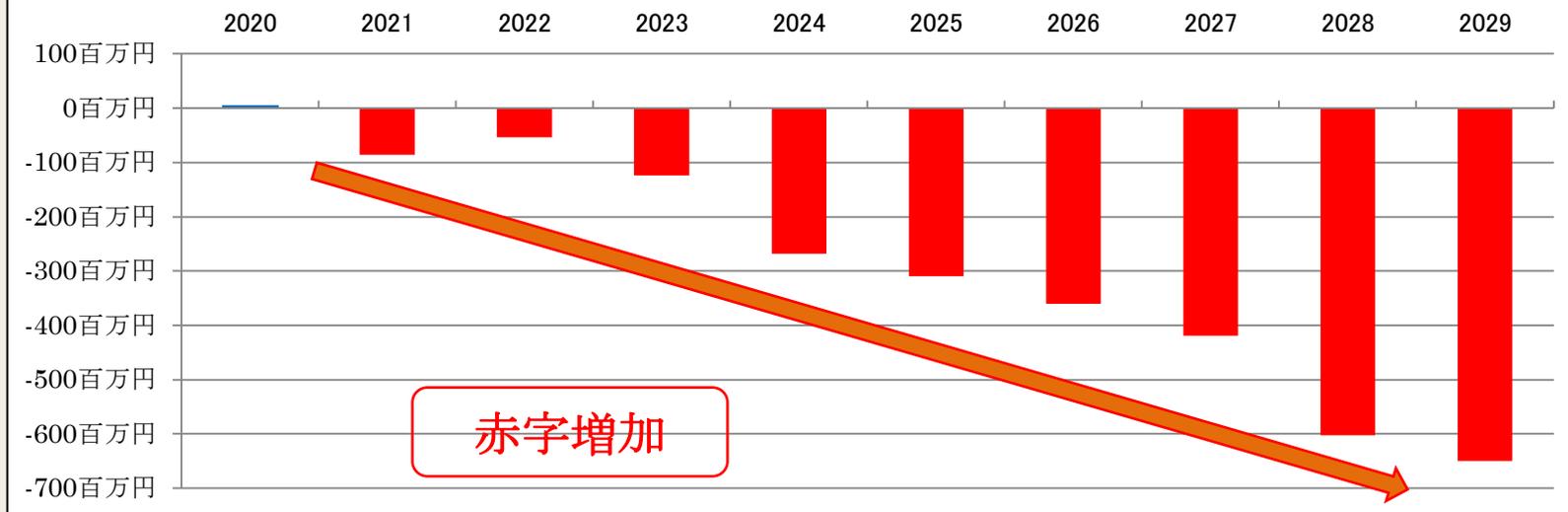
(2) 上水道の資金の将来見通し

◆2021年以降、資金不足額が年々増加

要因:

- ・人口減少等に伴う給水収益の減少
- ・老朽水道管等の更新経費が増大

<現料金での資金見通し>



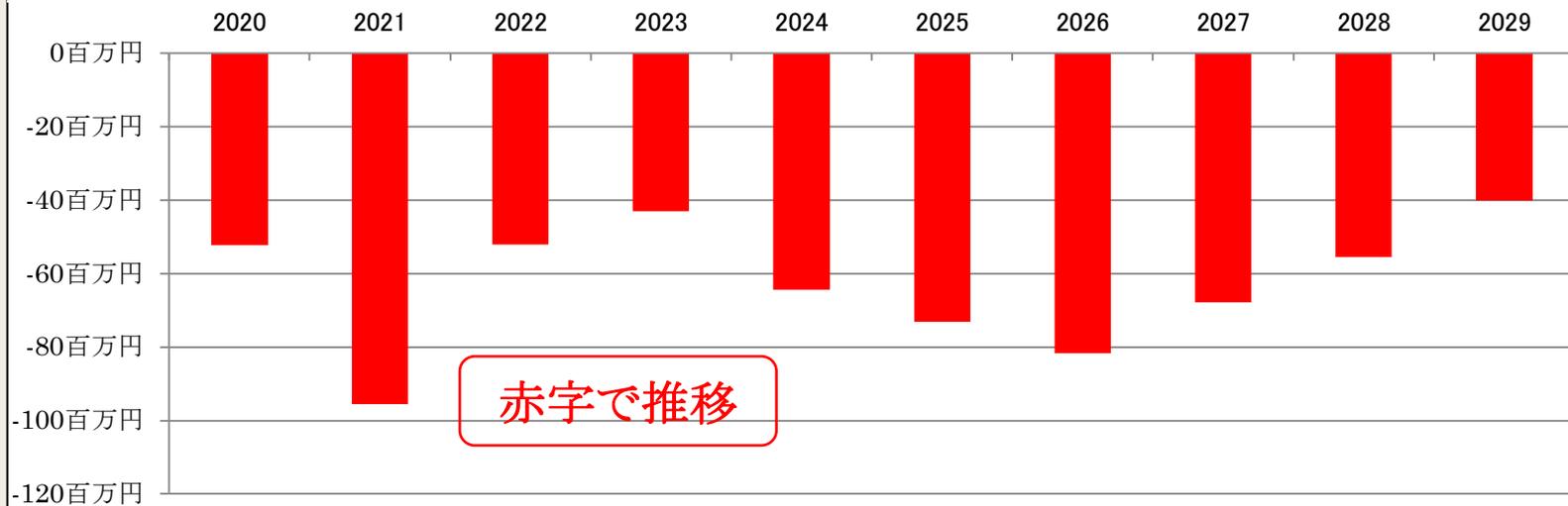
(3) 下水道の資金の将来見通し

◆2020年以降資金不足が10年間解消されない

要因:

- ・人口減に伴う下水道使用料収入の減少
- ・膨大な企業債の返済
- ・舞鶴市中期財政見通しに基づく公費負担額の減少

<現料金での資金見通し>



(4) 水道事業の企業債残高の状況

企業債残高



給水収益



企業債残高 ÷ 給水収益

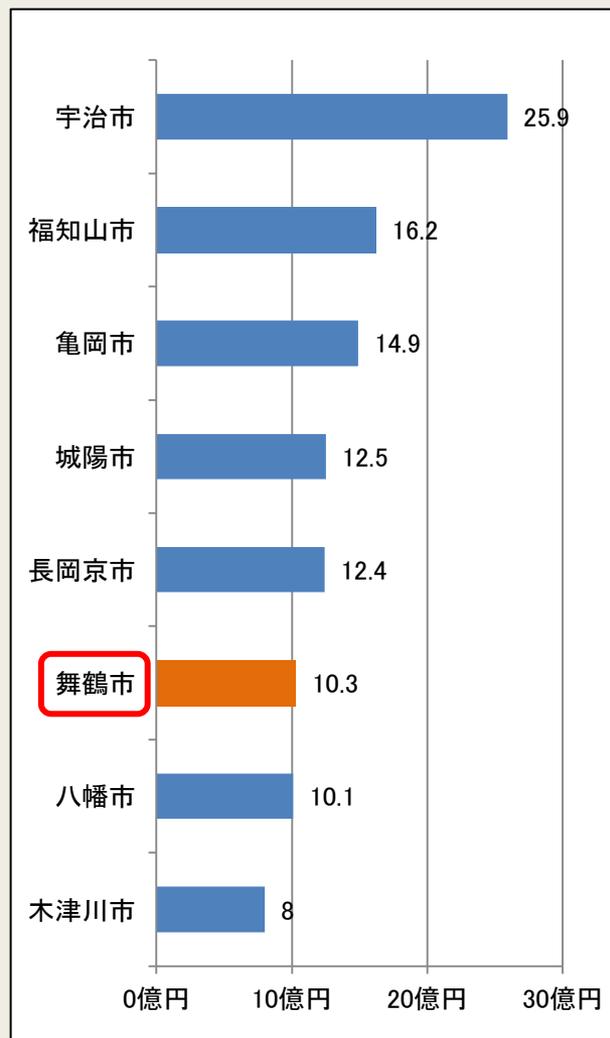


(5) 下水道事業の企業債残高の状況

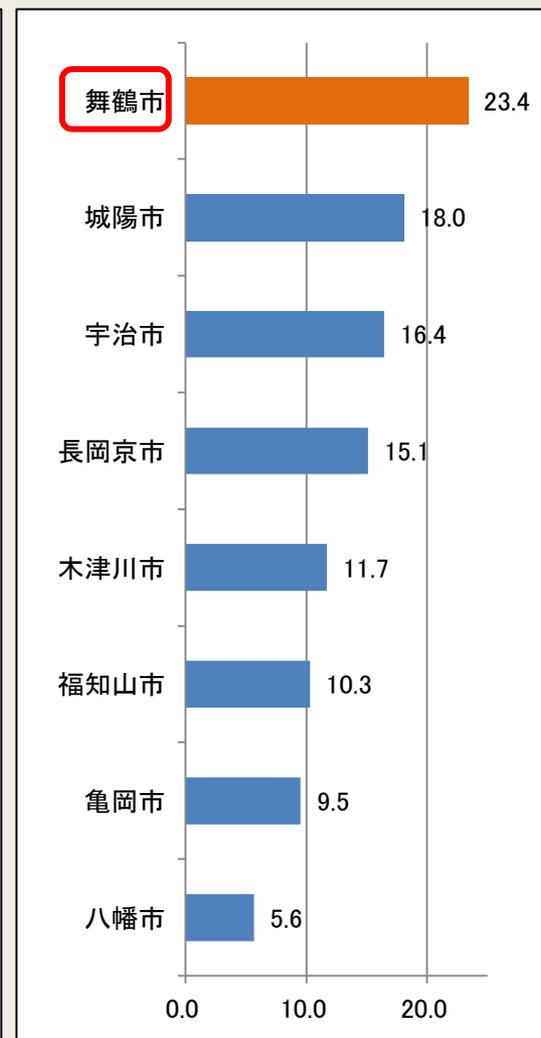
企業債残高



使用料収入



企業債残高 ÷ 使用料収入

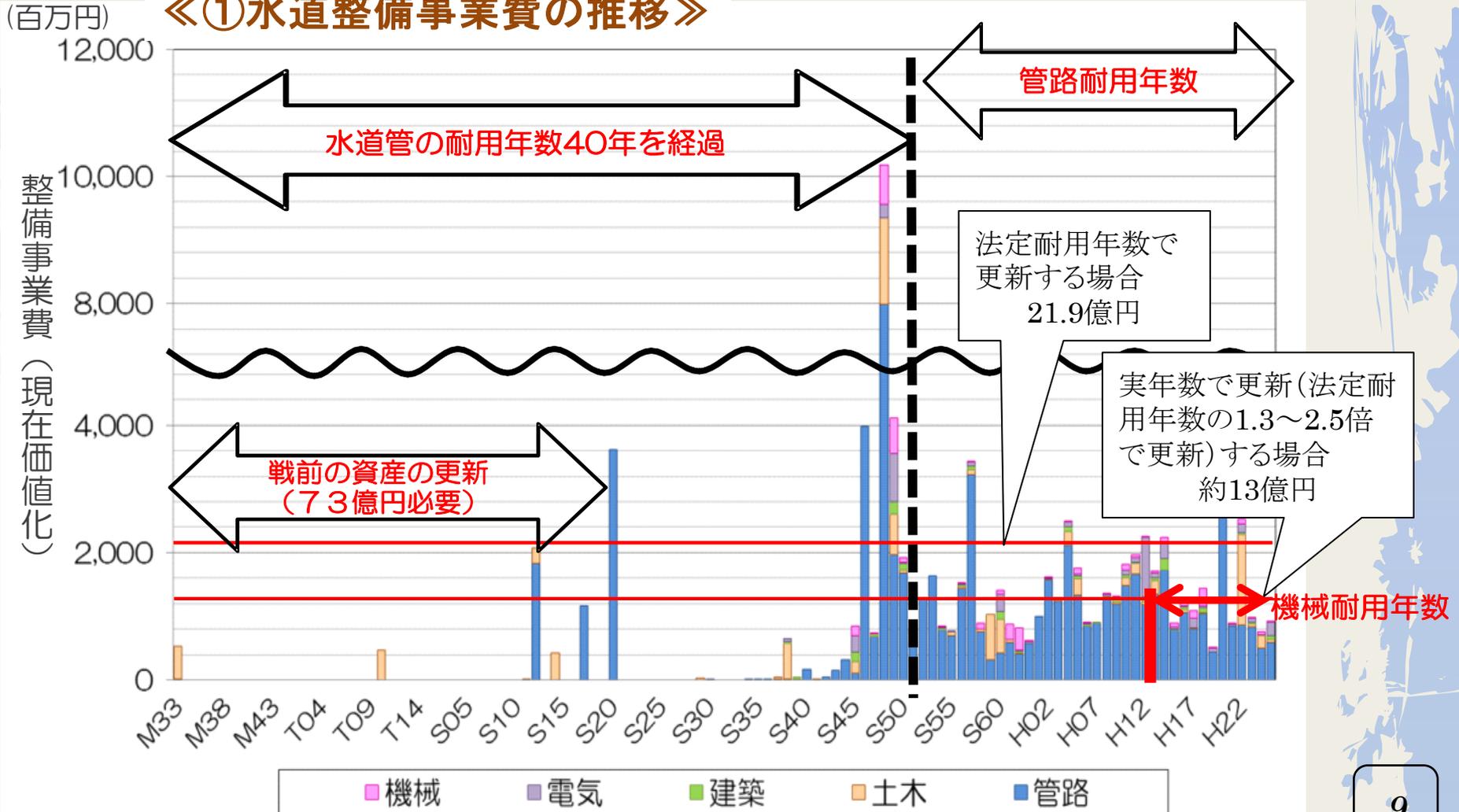


3 理念達成のための 具体的な取組

(1) 適切な資産管理

安定的な施設運営継続のため、適正な資産の更新に取り組みます。

《①水道整備事業費の推移》



現在更新中の水道管

資料1

H27 浜 φ 100 施工



H28 大内野 φ 150 施工



H28 下福井 φ 350 施工



H28 下福井 φ 350 施工



《②下水道管の管理延長》



昭和35年(1960)当時の下水道管理設工事

下水道管の耐用年数 50年 (2020年 510km)

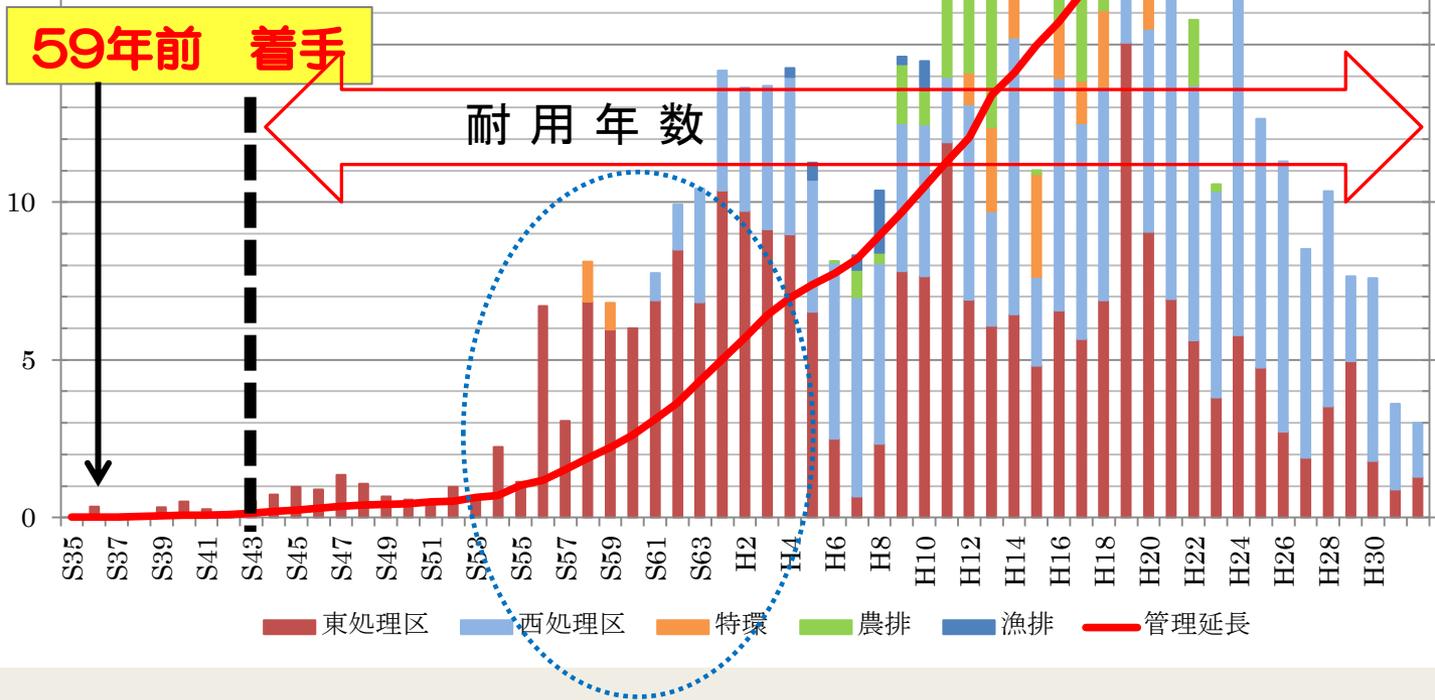
経過 約2km

整備延長 km

管理延長 km

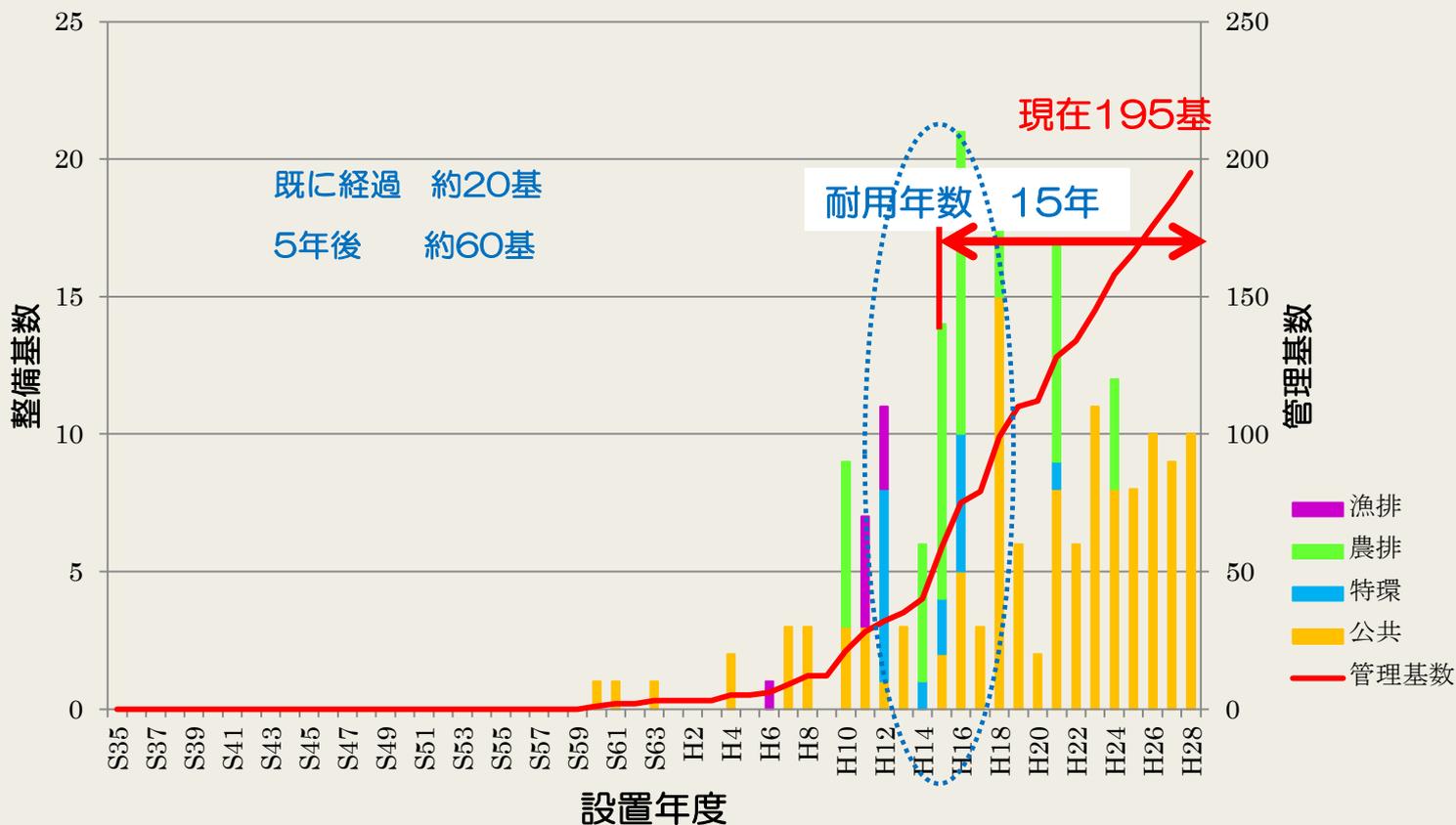
59年前 着手

耐用年数



汚水中継ポンプ場の設置基数の推移

施設建設から維持管理へ
平成32年度下水道管布設完了





築50年以上経過した水管橋



200基を越える汚水中継ポンプ



施設の心臓部の監視制御システム

下水道の改築・更新が必要な施設

資産更新計画

利用者負担の削減

資産更新は、安心・安全・継続的な
施設運営を前提に最低限とする。



実使用年数での更新

上水: 法定耐用年数の1.3~2.5倍
下水: 法定耐用年数の1.0~2.5倍

【水道】

実使用年数更新必要資金額 13億円/年(総資産844億円)

	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
更新費用 (法定耐用年数)	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9
投資計画 (実使用年数)	10.5	10.5	10.5	10.5	11.5	11.5	11.5	11.5	13.0	13.0

【下水道】

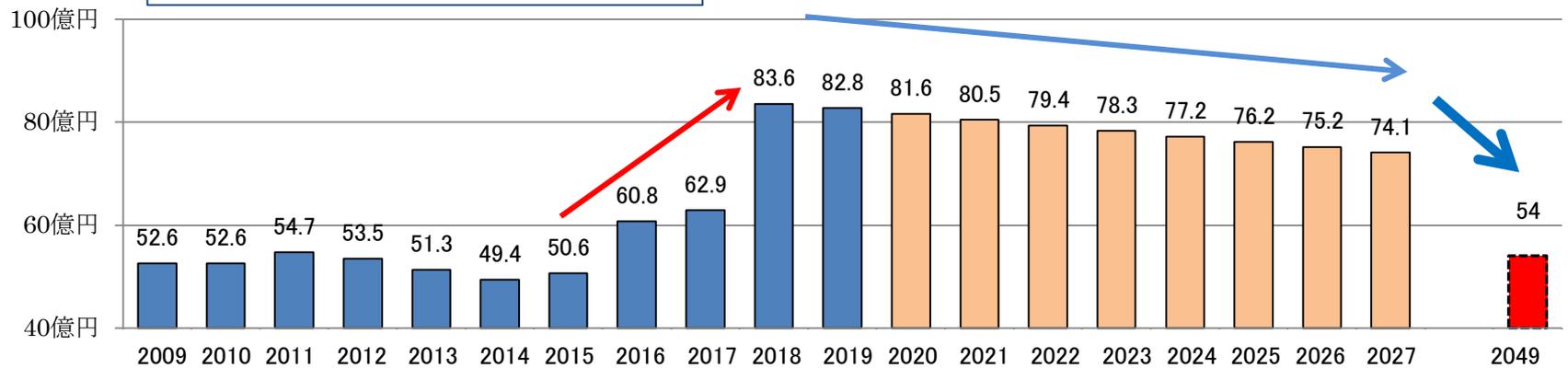
実使用年数更新必要資金額 15億円/年(総資産900億円)

	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
更新費用 (法定耐用年数)	23.1	23.1	23.1	23.1	23.1	23.1	23.1	23.1	23.1	23.1
投資計画 (実使用年数)	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
企業債償還額	18.8	19.7	19.8	19.0	18.6	18.4	18.1	17.9	17.3	17.1

(2) 適切な債務管理

将来的な負担軽減に向けて企業債残高の減少に取り組みます。

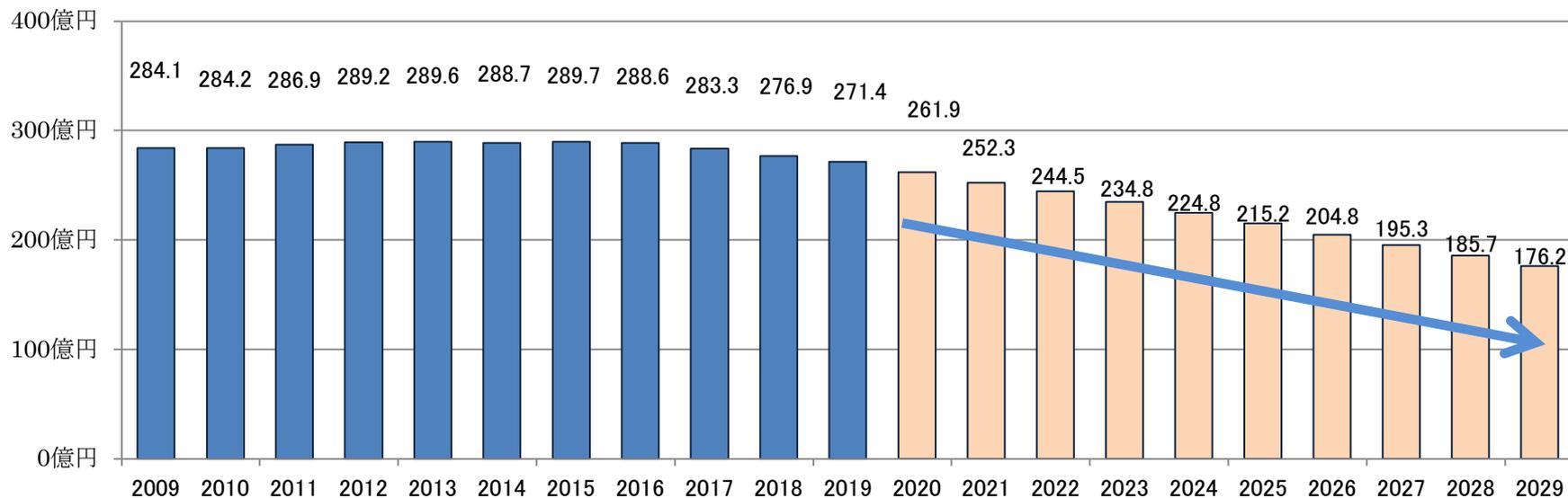
水道の企業債残高の推移



【水道事業債務管理方針】

- ・平成27年度からの3年間で30億円(60%)の増加
- ・30年後の資産大量更新に備え、**1億円/年の企業債残高の減少**に取り組み、30年後は50億円台にまで減少させる。

下水道の企業債残高の推移



【下水道事業債務管理方針】

- ・企業債は水道に比べ莫大だが、2020年以降、**年間8～10億円程度減少**する。
- ・今後も引き続き、年間償還額以下の借入に抑制し、企業債の減少に取り組む。
⇒ 今後も債務削減に取り組む

(3) 費用削減への取組

持続可能な事業運営のために、人員削減など経費の削減について取り組めます。

◆ 人員削減

これまでの取組

- ・H27年 80名 ⇒ H31年 66名
(削減率 17.5%)
⇒ **14名 × @730万円 = 1億円**

◆ 施設規模の適正化

- ・小規模浄水場を廃止 (池内・和江)
- ・配水管のダウンサイジング
- ・下水浄化センターを実際の汚水処理量に合わせ最小限のラインのみ稼働。

◆ 安価な運営への取組

- ・契約内容の変更により、電気使用料を削減
- ・電気使用量の少ない、与保呂浄水場の活用を増加させることで経費を削減

◆ 財源確保の取組

- ・料金回収率の改善
- ・水道管路更新の交付金の採択 (交付率: 1/3)

今後の取組

- 水道運営の外部委託
- 広域化による効率化
- ダウンサイジング
 - ・ 上福井浄水場の能力
6万m³ ⇒ 4万5千m³へ
 - ・ 水道管のダウンサイジング
⇒ 6億円の布設経費の縮減
- 与保呂浄水場の活用
⇒ 1,000万円/年削減

4 経営戦略の策定に向けて

経営戦略策定に向けた方針と今後の方向性

〈基本方針〉

〈方向性〉

(i) 安心・安全で安定的な上下水道サービスの提供のための適切な資産更新

➡ 但し、住民負担軽減のため最低限の資産更新

- ・ 水道事業更新費用 (耐用年数の1.3~2.5倍) 13億円/年
- ・ 下水道事業更新費用 (耐用年数の1.0~2.5倍) 15億円/年

(ii) 後世への負担軽減を見据え企業債の縮減に取り組む。

- ・ 水道事業債は年間1億円の残高を減少させ、30年後は50億円台にまで縮減させる。
- ・ 下水道事業債は年間8~10億円削減し、10年後までに総額180億円以下とする。

(iii) 費用の削減 ➡ 広域化、外部委託による効率化とコスト削減

- ・ 効率化・コスト削減のため、料金徴収部門の業務委託を実施する。
- ・ 質の高いサービス提供と将来的な広域化を目的に施設管理委託を実施する。



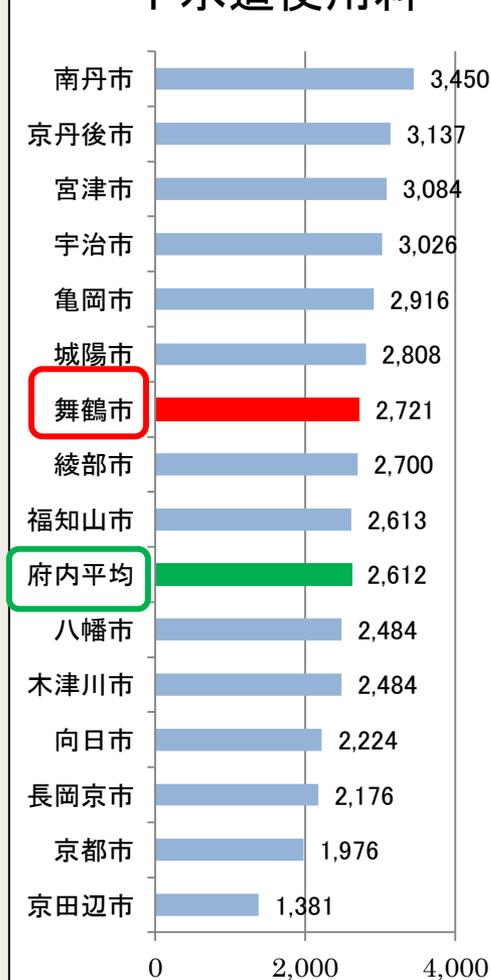
基本方針の達成に向け、適切な料金設定とする。

(参考:舞鶴市の上下水道料金の状況)

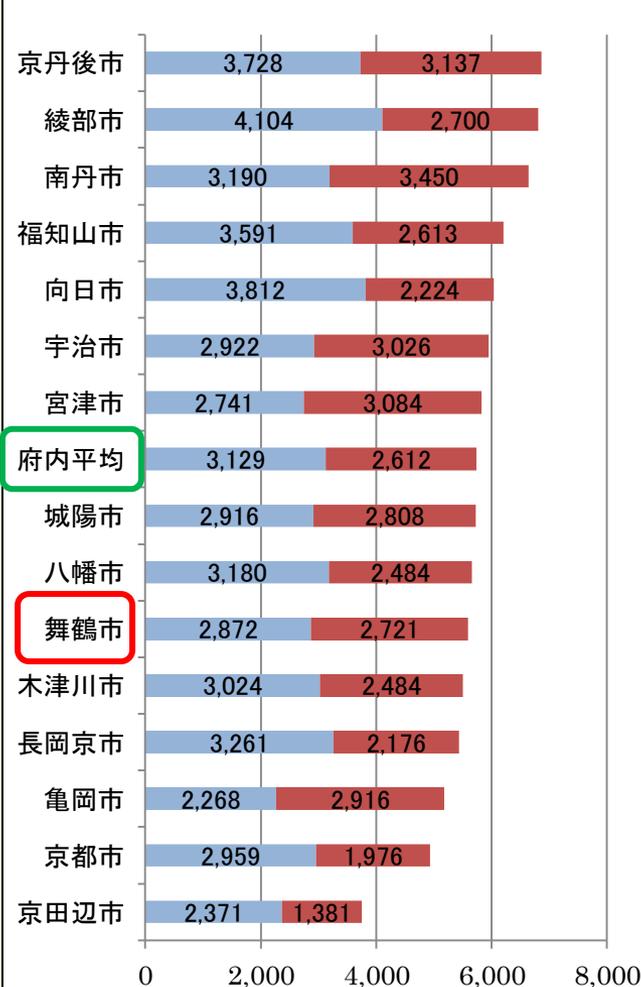
水道料金



下水道使用料



■ 水道料金 ■ 下水道使用料



【平成31年4月1日現在】

1ヶ月20m³使用(家事用) 口径:20mm

(税込)